

第三者意見

今回の報告において最も注目した事項は、CSV = Creating Shared Value(事業活動における社会との共有価値の創造)に言及されたことです。攻めのCSRともいわれるCSVという概念は、BOPビジネスに代表されるように、社会貢献効果のみでなく、ビジネスそのものによる適正な収益を得るといった、持続可能な事業継続を目的とするものです。トップ自ら「グローバルな視点での社会課題に目を向け、事業を通じた価値創出の実現」について決意を述べられていることは、シチズングループの事業活動の社会全体に及ぼす責任の重要性を強く認識していることが伝わりました。

また、今年度から経営層を対象としたCSRセミナーが開催されています。当該セミナーにおいて、企業に求められている社会的責任の変化・組織としての対応などの情報を外部有識者から改めて入手し、経営層において共有することは、ガバナンスにおけるCSRの重要性を再認識することに繋がり、組織全体での取組に反映されることになるでしょう。CSVもその表れであると考えます。今後、組織のCSR活動が業界におけるトップランナーとして、推進していくことを期待いたします。

グローバル企業における重点課題としては、新興国における労働問題が挙げられます。タイ現地法人であるROYAL TIME CITI CO., LTD. では、従業員のニーズから生まれた様々な教育体制を確立、実施しています。また、労働力の主力である女性にとっての働きやすい職場作り、従業員の健康管理の推進など、海外サイトでの労働上の課題に対して様々な対策を実施しています。

これらの活動は、中期経営計画の重点課題である「拡大するアジア市場へのマーケティング対応」、および企業理念である『市民に愛され市民に貢献する』企業としての取組みと合致した報告となっています。昨年の報告書においても中国法人での取組事例が紹介されており、地域社会に根差し、ともに発展していこうとする組織の継続的な活動として評価

SGS ジャパン株式会社
サステナビリティサービス部
主任検証人

都倉 知宏 氏



いたします。今後も他の地域でのこのような報告を期待いたします。

ダイバーシティでの章では、世代の違う女性従業員の対談形式での意見聴取にチャレンジしており、グループにおける女性就労におけるメリット及び改善ポイントについて報告されています。特に改善ポイントについては、率直な意見が交わされています。現時点での弱点であるといえる改善ポイントについて報告されていることは、報告書全体の信頼性向上にも寄与していると考えます。PDCAの取組みを明確にすべく、今回の対談において出された改善ポイントに対する取組み内容について今後報告されることを期待いたします。

巻末にデータ編として、環境及び従業員に関わるデータをグラフなどの形式にて、経年変化を示して報告していることは、前回に比し改善された点として評価できます。今後は、報告対象組織との整合性も考慮に、データのバウンダリの明確化や、海外サイトのデータ開示を進めていくことを期待いたします。

また、今回開示された報告内容やデータは、CDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)活動にも代表されるように、信頼性や正確性の向上という視点で第三者の検証を受審することへのニーズが高まっています。EMSの統合認証も高く評価できますが、さらに、CSRに対する第三者の検証についても、今後の視野に入れられることを期待します。

第三者意見を受けて

貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。CSVの推進活動につきましては取り組みを始めたばかりですが、グローバルな視点での社会課題に目を向け、積極的に推進したいと考えています。中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」の目指す姿である「真のグローバル企業」となるためには、人材の育成やダイバーシティの推進などの企業活動と一体となったCSR活動が重要です。本報告書でも海外を含めたこれらの活動について取り上げましたが、今回いただいたご意見を参考にさせていただくことによって、ステークホルダーの皆様のご理解がさらに深まるような報告書となるよう今後も努力を続けたいと思います。



シチズンホールディングス
CSR室長
永澤 順司